

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書

令和8年2月4日（水）作成

校長 増坪 広夫 記述者 職名 教頭 渡邊 亜希彦

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」
・知育 … よく学び よく考える子ども（かしこい子）
・徳育 … 思いやりのある子ども（やさしい子）
・体育 … 健康でたくましい子ども（げんきな子）

学校経営方針 **基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮**

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C Aサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
⇒常に学び続け、向上心を持つ教師でありたい。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

- ・令和7年度の学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向け、一人一人の教職員が分掌や役割から具体的な取り組みについて提案し、職務を遂行してきたことにより、本校の自己評価・児童及び保護者アンケートの結果は概ね良好な水準にあるといえる。また、それぞれの学年経営方針に基づいた学年目標が設定され、その実現に向けて学年・学級経営が行われていると考えられる。昨年度までとの比較では、3分の1職員が入れ替わったことにより、厳しい自己評価をした職員が多かったことが推察される。
- ・学習指導については、全体的に肯定的な評価が多く、個々の児童の学習状況を把握しながら、協働的な学びや対話的な学び、問題解決型の授業を意識的实施するなど、児童の学びに向かう力を育てる授業改善が進んでいる。一方で、ICTの発展的な活用とともに、家庭学習の充実や基礎・基本の定着に取り組む必要があると教職員・保護者・児童とも考えている。
- ・いじめや不登校等の生徒指導上の問題や規範意識を育む指導に、職員が児童と向き合いながら、積極的に取り組んでいる。一方、多様化する生徒指導上の課題解決に向けて、今まで以上に職員間の協働した取り組みを推進するとともに、保護者や地域住民の協力と連携した取り組みの充実が求められる。
- ・本校では、学習活動や安全確保において、地域人材や保護者、施設や団体との連携した取り組みが数多く行われ、教育の充実や安全確保が図られている。地域とのつながりは、年々評価が向上しているが、より主体的に取り組む、連携を強化していきたい。さらにホームページの充実や授業参観・学校開放日などにおいて、積極的に学校の様子を知っていただき、情報を発信することによって学校への関心が高まり、信頼される学校づくりにつながっていくと考えられる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や学校経営について、自己評価全項目で肯定的な評価がほとんどとなっている。これは校長の学校経営方針の下、教職員が共通認識をもって学校教育目標達成に向けた教育活動を高い意識レベルで行い、一定の成果を得ているからと考えられる。 ・学年学級経営や教育活動を、活動計画に基づいて、意義や目的を明確にして実施し、より質の高い教育活動にしていこうという意識が感じられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程をすすめるにあたって、学習活動や行事等の実施において、事前の計画だけでなく、反省や改善を大切にして、職員会議等での議論を通して、教育活動がより学校の実態や体制に即したのものになるよう教職員全員で組織的・協働的に取り組んでいく。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に肯定的な評価が多い。特に「協働体制で教育活動にあたっている」「報告、連絡、相談、確認を行っている」の項目では、非常に高い評価をしている。このことから、他の教職員と連携して、主体的に学校運営に関わっている教職員が多い。さらに、業務の効率化を図り、働き方改革に取り組んでいることがわかる。 ・保護者アンケートでは、教職員が地域、保護者と連携した教育活動の推進を心がけていることや日頃から保護者への連絡を迅速に行っていることに加え、お便りやホームページなどで児童の様子を発信していることにより、児童の様子が地域や保護者に伝わっていることが分かる。学校運営に関する項目では、「学校は楽しいところだ」が94%（児童の評価は92%）「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」が94%、「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」が82%、「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」が97%と肯定的な評価が高い水準を示し、例年よりも評価平均値も高くなった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「校内研究に主体的に関わっている」の項目については、肯定的な評価は高いものの、例年よりも評価平均値が下がってしまった。教職員一人一人の実践は確実に積み上げられているので、教職員間での共有をさらに進めていきたい。 ・「校務支援システムを十分に活用できている」の項目についても、例年よりも評価が下がることとなった。分掌や担当によって、使い方に個人差が出てしまうため、いたしかたない部分もあったかと思う。令和8年度から「校務支援がBLENDに移行」となるため、教職員で運用方法の共通理解を図り、校務に効果的に利用していきたい。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に肯定的な評価が多く、学校経営の指導重点である「確かな学力と自立する力をはぐくむ指導と評価」を意識し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業を展開し、児童の学びへの意欲を喚起していることがうかがえる。 ・保護者アンケートや児童アンケートでは、肯定的な意見とし「学校は熱心に授業に取り組んでいる」91%「先生はよく勉強を教えてくれる」が97%、「国語の授業が分かる」が94%、「授業の内容がわかっている」が89%と高く、児童の学力向上に取り組んでいることが評価されている。「算数や外国語の授業」に関する肯定評価も90%前後となっており、教職員の頑張りが一定の評価を得ていることがうかがえる。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究や日々の職務時間での協働的な学び合いの時間を確保し、児童の実態に即した授業を教職員が自信をもって行える環境づくりを更に進めていく。 ・個別最適な学びを進めていくため、ICTを使う授業を意識的に取り組んできたが、児童が主体となって授業を進めるためにICTをどう効果的に使うかという視点で研究を深め、教職員と児童のスキルアップを図っていく。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「規範意識をはぐくむ指導」「いじめ、不登校の早期発見・早期対応」の項目については、肯定的な評価が100%、「児童理解のためのコミュニケーション」についても96%という評価から、児童に寄り添いながら意欲的に取り組んでいることがわかる。また、民主的な集団づくりを大切にして、教育活動全般を通して丁寧に生徒指導を行っていることがうかがえる。 ・保護者アンケート、児童アンケートの「相談できる先生」の評価平均値が8割をこえている。児童のことに親身になって相談にのっていることが評価されていることが分かる。 ・日頃から休み時間、校庭や教室で児童と楽しく遊んだり、話をしたりする教職員の姿や児童と一緒に掃除をする教職員の姿が多く見られ、十分な児童とのコミュニケーションを土台とした児童理解をもとに生徒指導が行われていることが分かる。 ・児童のアンケートからは、「清掃活動」「あいさつ」にしっかり取り組んでいるとの評価が得られている。「朝のあいさつ運動」や「ていねいな清掃指導」の結果が、徐々にあらわれてきている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立はできてきているのだが、よりよい学校生活を目指していくためにも、本校の課題と保護者も感じている「あいさつ」については、児童たちの組織も活用しながら、「自分たちから」という意識をさらに育てていきたい。 ・児童の学校生活での様子や保護者の願いを適切に把握しながら、教職員が協働し、保護者と連携しながら、児童の実態に即した指導の充実を図る。そのためにも、関係機関や専門家を招いての研修の実施や、児童の生活アンケートの活用を行っていく。一人一人の児童を大切にしていくためにも情報共有をこまめに行い、丁寧な生徒指導を心がけていく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・敷島北小学校の特色である地域との結びつきや人材活用による教育活動は、校外学習に加え、「敷島保育園との交流会」「昔の遊び集会」「野菜づくり」「地区探検」「自転車教室や交通安全教室」「昇仙峡学習」「10歳を祝う会」「米づくり」「八ヶ岳の自然体験活動」「太鼓演奏指導」など、様々な分野において実施してきた。地域の外部人材や保護者応援団、東京大学教授まで活用し、学びの機会を数多く実施してきた。また、児童の登下校の安全を守るために、地域見守り隊や帰り道ふれあい事業に関わる地域の方や保護者に御協力いただいている。そのことが、全ての項目における肯定的な評価90%以上につながっていると考えられる。 ・保護者アンケート「地域との連携」に関わる質問項目の肯定評価が8割となっており、本校が大切にしている地域との強いつながりが感じられる。運動会や音楽発表会では、地域の方にも参加していただく機会ができ、今後の地域との連携の広がりが感じられた。 ・敷島北小学校では、校外学習だけでなく、日常の教育活動における児童の様子を日々ホームページやお便りで発信し、保護者や地域の方々に学校の教育活動の様子が伝わるように心がけてきた。そのことが、「お便りやホームページを通して教育活動を知ることができる」の肯定的評価95%という高い評価に結びついている。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教育活動での連携の在り方を振り返り、より児童の学習活動や安全確保が充実するように保護者や地域との連携の在り方を継続的に見直しながら実施していく。 ・学校評価をもとに、学校運営協議会で出された意見を学校運営の改善に生かしていく。 ・「おやじの会」「母親の会」といった本校の中心的存在の方々ばかりでなく、「学校応援団」のように、保護者をさらに巻き込んだ組織を活用していきたい。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に活躍の場や役割があり、集団や個人の目標の達成感を感じることができる学校行事の実現や教育活動の充実に向けて全職員がチームとしての取り組んできたことが、「学校や児童会の行事に、児童が進んで取り組むよう指導している」の自己評価に表れている。また、保護者アンケートにおいても「学校は学校行事や児童会行事に力を入れて取り組んでいると思う」の肯定的評価が85%となっている。「授業参観や学校開放日」への高評価も含め、本校の学校行事への取り組みが保護者に伝わり、評価されていることが分かる。 ・業前タイムでは「読書」「国語の学習タイム」「北小タイム」などが年間を通して実施され、縦割り班活動による異年齢での交流や音楽活動や読書活動の推進につながった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの友達と関わりながら達成感や充足感を感じ、学校生活が楽しいと感じられる児童会活動や学校行事づくりを推進していく。そのためにも、教職員が組織的に取り組み、PDCAを生かした教育活動を展開していく。 ・毎日の業前タイムを通して、保護者アンケートでも比較的評価の平均値が低い読書や運動の習慣化（評価平均値は上昇中）、学力の基礎基本の習得につなげられるように計画的に取り組んでいく。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書活動」「校歌」「体力向上」といった項目については、日頃から業前タイムで取り組んだり、集会や行事を通して機会を設定することで、教職員も意識的に取り組んでおり、肯定的評価も90%前後と高くなっている。 ・体力向上の取り組みとして、北小タイムでの縦割り遊びや縄跳びチャレンジなど、趣向を凝らした運動の機会を設定することを心がけてきた。また、委員会活動での「外遊びの推奨」が継続して行われたことにより、児童のアンケートの高評価につながったと考えられる。 ・「国語の授業がわかる」の肯定的評価が94%をこえる児童アンケートの結果から、読書活動や業前タイムでの国語の学習が生かされていると考えられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者、外部の人材も活用した活動を、今後も継続して実施していきたい。北小タイムを通じた異年齢との交流も設定しながら、児童が体を動かすことの楽しさを味わえるようにしていきたい。また、外部人材を活用した機会により、児童の運動技能と教師の指導力の向上に取り組んでいく。 ・図書館司書・図書主任と担任とが連携して、年間を通じた図書館の積極的な活用や読書活動の充実、図書委員会の取り組みなどを今後も継続していきたい。 ・校歌を歌う機会を設定し、行事においては保護者の地域の方との交流を考えていきたい。また、音楽発表会や卒業式前に指導していただいている講師を、校歌指導にも活用していきたい。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・全職員が学校経営方針、学校教育目標を理解し、その目標の具現化のための協働的な取り組みにより学校運営が適切に行われている。
- ・職場全体の働き方改善への意識が定着してきていて、校務の効率化や行事への取り組み方に工夫が見られた。
- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」だけでなく、問題解決型の学習に取り組むなど、児童の学習状況や実態に応じた授業改善を行うなど、児童の学びへの意欲を喚起する授業づくりに教職員が取り組んでいることが、児童の落ち着きにもつながっていた。
- ・各学年の学習や活動において、「おやじの会」や地域人材、保護者の協力、外部団体の講師の活用（東大教授）などが積極的に行われ、児童や教職員に多大な教育効果をもたらしている。
- ・地域見守り隊や帰り道ふれあい事業など、地域人材の活用と保護者の協力により、児童の登下校の安全確保が保たれている。
- ・校外学習だけでなく日常の教育活動での児童の様子が、日々ホームページやお便りなどを通して発信され、保護者や地域の方々に学校の教育活動が周知されている。
- ・児童に活躍の場と役割が保障され、達成感を感じることができる学校行事の取り組みが教職員の協働のもと保護者と連携して行われ、学校の思いが保護者に伝わるとともに、児童の楽しいという気持ちにつながっている。
- ・教職員が創甲斐教育の趣旨を理解し、異学年による交流や体力の向上、基礎学力定着、読書活動の充実に向けた取り組みが意欲的に行われている。

〈課 題〉

- ・カリキュラムマネジメントの重要性を全職員が理解し、PDCAサイクルの「C：チェック」と「A：アクション」を適切に行い、教育活動の更なる充実につなげていく。
- ・校内研究を中心として授業づくりやICTの発展的な使用法の研究を充実させるとともに、教職員がそれぞれの得意分野を生かした研究や社会情勢や児童の実態に即した視点を持って指導にあたることを通して、児童が主体となって進める授業を推進していく。
- ・授業改善とともに、基礎基本の定着をより一層図っていくために、家庭学習の充実に取り組んでいく。
- ・生徒指導においては、児童の観察と情報共有に丁寧に取り組むとともに、保護者の願い等を的確に把握して、教職員の協働的な取り組みを進め、迅速かつ丁寧な対応に努めていく。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子育て支援課などの関連機関や専門家と連携して、生徒指導上の課題解決にあたっていく。
- ・児童の組織を生かすとともに、保護者や地域とも連携しながら、挨拶による交流を通して、人間関係づくりのできる児童を育てていく。
- ・働き方改革推進に向け、PDCAサイクルの効果的な運用による業務の効率化を進め、働き方を学校全体で意識し、実行していく。
- ・学校評価の結果を公表するとともに、本校における課題を明確に提示し、保護者や地域の協力的体制を得られる取り組みを提案していく。
- ・保護者、学校応援団、「おやじの会」「母親の会」「地域見守り隊」「帰り道ふれあい事業」といった様々な組織や地域と学校との連携を進めていくために、それぞれが主体的に児童たちのためにできることを考えていく機会を学校運営協議会などを通して検討していく。